令和４年度伊勢原市行財政改革推進委員会第２回会議録

〔事　務　局〕　企画部経営企画課

〔開 催 日 時〕　令和４年８月３０日（火）午後3時00分から午後4時30分まで

〔開 催 場 所〕　伊勢原市民文化会館　練習室２

〔出 席 委 員〕　7名
鈴　木　靖　夫（会　長）
青　柳　貞　徳（副会長）
大　川　　要
河　原　啓　子
中　村　隆　志
引　田　道　人
吉　野　　太

〔事務局職員〕　5名
山　室　好　正（企画部長）
酒　井　哲　也（企画部行政経営担当部長）
桐　生　尚　直（企画部参事兼公共施設マネジメント課長）
山　口　博　巳（経営企画課行政経営担当課長）
都　竹　新　平（経営企画課行政経営係長）

〔公 開 可 否〕　公開

〔傍 聴 者 数〕　なし

《議事の経過》

1　議題

（１）公共施設等総合管理計画改訂等に向けた公共施設の見直しの方向性（素案）及び市民参加について

2　その他

※質疑応答・意見等は別紙１のとおり

別紙１

１　議題

（１）公共施設等総合管理計画改訂等に向けた公共施設の見直しの方向性（素案）及び市民参加について

	[質　問]	[回　答]
1	公共施設等総合管理計画の見直しに向けた市民ワークショップについて、無作為抽出により 1000 名の市民に参加を呼びかけたところ、出席の意向があった市民は 8 名、その後のくらし安心メールや市公式 LINE による追加募集で 6 名、合わせて 14 名の参加ということだが、この 14 名の参加者に何を求めているのか。市が市民ワークショップを実施したという結果が欲しいだけなのではないか。市としてどう捉えているのか。	市民ワークショップについて、無作為抽出からの参加者は 8 名であったことから、公共施設問題に対する市民の関心をどのように高めていけばよいのかという課題が浮き彫りになったと感じている。 市民ワークショップの進め方は、市が依頼している外部のアドバイザーに相談し、当日の全体コーディネーターもお願いしている。 市民ワークショップは 3 回に分けて、個別の特定の施設をそれぞれテーマにして実施する予定。当日の流れとしては、参加者が個別テーマの公共施設の課題や改善点などについてどのように感じているかや、市が示す施設の見直しの方向性(素案)に対してグループ討議をした上で、グループごとにどのような意見等が出されたかについて発表していただくことを想定している。なお、様々な立場の方に参加していただき、市民の皆さん同士で意見交換をしていただくもので、一定の結論を出すことまでは、求めていない。
2	市民ワークショップの参加者が 14 名とのことだが、14 名では、出席者の年代、性別、職業等、様々な立場を網羅できているとは言い難く、多様な意見が出るかは疑問である。 一番心配しているのは、市民ワークショップ及び地区別住民意見交換会において、声の大きい方から一部の偏った意見しか出ないような場合である。執行者側としてどのように受け止めていくのか。	公共施設等総合管理計画の目指すところは、今後、長期的な視点で公共施設のあり方の方向性を決めていくこと。普段施設を利用している市民だけではなく、それ以外の市民からの意見も幅広に耳を傾けて、公共施設のあり方について整理をしていきたい。
3	資料に、〔公共施設を「新しく造る」のではなく、今ある施設を「賢く使う」時代へ〕と記載があるが、施設を改修により継ぎ接ぎで使い続けていくことには無理がある場合もある。予算が厳しい中においても、メリハリをつけて、スクラップアンドビルドにより、廃止する施設は廃止して、必要な施設については、次世代に対応したもの	これまでのように施設を新しく整備すればよかったという時代ではなく、これからは施設の総量を縮減していかないと財政的に厳しいということが基本的な考えであるが、施設の長寿命化や複合化を無理やり進めることにより、かえってコストが高くなることや機能面で使い勝手が悪くなるようなことにはならないように見極

	を新規に整備していくことも必要ではないか。	めていきたい。
4	市民ワークショップや地区別住民意見交換会において市民意見を伺うに当たっては、市としての施策の方向性・ビジョンを明確に示した上で行うべきではないか（高齢者に寄り添った方向としていくのか、若い世代を呼び込む方向としていくのかなど）。 そうしたことを踏まえて、施設のあり方や評価をすべきではないか。 また、児童館や障害福祉センターなど、譲渡や廃止の方向性を示している施設については、どのような形で譲渡を進めていくのか、これまでその施設を利用していた利用者や活動が今後どうなるのか、しっかりとその後の活動場所についても検討した上で説明を行い、納得してもらうことが重要である。	公共施設の見直しに当たっての基本的な方針については、別途、検討しており、今後、改めて示していく。 また、譲渡や廃止の方向性を示している施設で、利用ニーズ等を踏まえて今後も維持･継続とする機能をどのように機能移転等をしていくかについては、今後、丁寧に議論する必要があると考えている。
5	資料の内容について、施設の老朽化など、課題のみにしか言及していないが、夢のある明るい展望についても記載があってもよいのではないか。例えば、小さなものでもいいから美術館や資料館を造るとか、病院との連携が取れているとか、健康文化都市としての伊勢原の強みを計画に取り入れるとよいのではないか。 また、近隣市と比較して本市の遅れている部分については、客観的に評価することも重要である。	伊勢原市の公共施設における大きな課題の一つとして、他の同じ規模の団体や県内の他市と比べて、施設数自体が極端に多いということではないが、施設の老朽化が非常に進んでいる一方で、その対策に手を付けられていないということがあり、そのための具体的な対応策をまとめて計画的に進めていくことが、今回の見直し作業の中でも重要なことと認識している。 また、文化都市として、資料館などの施設を一つの館として新たに造るということはハードルが高いが、たとえば、行政センター地区の再配置や多機能化に向けた見直しの中で、今ある施設を活用しつつ、そうした機能のあり方も含めて、今後、検討を進めていきたい。
6	資料中に「伊勢原駅北口周辺地区整備事業に合わせて検討」という文言が何度か出てくるが、これは北口整備が進まない限り該当の公共施設の検討も進まないということか。北口整備については、30 年前くらいから検討しているが進んでいるように見えないので、いつになるのかわからないと感じている。	伊勢原駅北口周辺地区整備事業については、現在、具体的に検討しているところであり、進捗状況は市 HP 等でも周知している。 周辺の公共施設については、同事業と連携して再編整備を進める必要があるため、今後、庁内共通認識のもとで取組を進めていく。
7	地区公民館は、本来の公民館事業の他に、地域と行政が連携して地域課題を解決	自治会をはじめ、NPO など、地域活動をしている多様な主体により、地域協議会の

	していく拠点に移行していくとのことだが、具体的にどのような利用をイメージしているのか。	ような組織、地域運営組織を作り、一緒になって地域づくりや地域課題の解決を担っていくような仕組みづくりの検討を進めて、地区公民館等をその活動の拠点としてはどうかと考えている。
8	今後の公共施設の運営について、直営ではなく民間委託等の手法もあると思うが、どのような考えか。	既に指定管理者制度を導入し、指定管理者に管理･運営を任せている施設もあるが、一方で市民文化会館や図書館、大山第一･第二駐車場など、指定管理者制度を導入しておらず、直営の施設もあることから、引き続き検討を進めていく。また、既に指定管理者制度を導入している施設についても、民間活力や民間のノウハウが十分に発揮されているかどうかについての検証をすることも必要である。 また、PFI などの活用により、今後の改修とセットで管理運営のあり方を検討していきたいと考えている。

［意　見］

- 高部屋愛育保育園は建て替える方向性で整理されているが、過去の経緯についてしっかり確認していただきたい。
- 公共施設のあり方を検討する上では、トイレについても十分考慮していただきたい。トイレは誰もが必要不可欠なものであり、障がい等があっても安心して使えるユニバーサルデザイン化されたものを整備していくなどの検討をしていただきたい。
- コロナ禍による出生数の減少や少子化の影響による懸念もあるが、子どもがたくさんいる地域は、小学校を中心に施設も充実し、地域が活性化する点も踏まえて、将来のまちづくりの方向性を示す必要がある。
- 公共施設のあり方についての検討は、非常に大きな課題であり、長期的な視点で優先順位を決めて取り組んでいかないと将来大変なことになると考えている。痛みを伴うものであるため、市のビジョンを明確にした上で進めていただきたい。

2　その他

※ 会議時間の都合上、施設類型毎･個別施設毎の見直しの方向性（素案）について意見等がある場合は、9 月末までに事務局に提出することをお願いした。

以　上